

# 首里寒川町を巡る

寒川町は、かつて寒水川(スンガー)と呼ばれ、一八七九年に立岸村と合併。一九二二年に「水」の字を取り現在の寒川となりました。王国時代には首里士族の屋敷町、明治以降には芝居小屋や電車道、沖繩初のラジオ局など、時代と共に異なる顔をみせてきました。清らかな水と文化をめぐるります。

## 寒水川樋川(スンガーヒージャー)

アカマルソウ通りの下方に現在でもこんこんと湧き出ている湧泉が寒水川樋川です。寒水川とは清水を意味し、この井泉が村の地名の起りでもあります。

水は、樋口の奥にある水脈から樋(こい)で半月形の水溜に導かれています。水溜の背後は、土砂が崩れないように三段の石積みで組まれ、大きな水溜の縁石と石敷きとが一体となって先人の技を感じます。

水溜の水は、今日のように上水道が普及するまで、付近に暮らす住民の大切な生活用水として飲料水に用い、石敷きでは洗濯などが行われ賑わっていました。あふれる水は、下手にある原井戸(ハルガー)の水溜に集められ、農業用水などとして活用されました。なおもあふれる水は、谷間を流れ下流の石組水路を通り安里川へ注がれています。

同じ名前を持つ井泉が首里城内と赤田町にもあります。



安国寺

## 寒川町の名所・旧跡

### 安国寺

天界寺の末寺として開基した臨済宗の寺。一四五五年頃に建立され、一六七四年に現在の地に移転しました。十二支に対応した守り本尊を祈願する「十二カ所巡拝」のうち、「酉のウカチミ(酉年の人の役寺)」として現在でもその祈願者は絶えません。

## キミコイシ嶽(君恋嶽)

安国寺境内にある拝所で、一七一三年編集の『琉球国由来記』には「キミコイシ嶽」とあり、由来は不明です。一説には尚真王の妹の屋敷跡とも伝えられています。

## メズラ嶽(美連嶽)

真壁殿内が管轄する国家祭祀を行う御嶽で、方言では「ミンチラダキ」「ピンダダキ」とも呼ばれ、「美連嶽」の当て字で表記されることもあります。



メズラ嶽(美連嶽)

## 御客屋跡(ウチャクヤ)

薩摩の在番奉行が首里城へ登城する時の控所。在番奉行は那覇にあった御飯屋(ウカイヤ・在番奉行所)から、いったんこの地で待機し、王府の指示を待ってから登城することになっていました。廃藩置県以降には一八八六年に首里尋小学校が建てられました。



御客屋跡(ウチャクヤ)

## 水のある風景

### ヌーリガー(海苔井戸)・寒川町

コープ寒川の西側マンション前に「ヌーリガー井戸」と刻まれた石碑があり、井戸らしきものが残っています。ここはかつて下寒水川の村ガで、塩分を含まない清水の中しか発生しないシマチスジノリが生えていたほど清冽な湧水であったようです。

金城町にはこの海苔井戸より高い位置にあり、潮まじりの湧水と言われる潮汲川(ウスクガ)があります。伝承によれば、往昔松川集落からこの一帯までは入江だったとされます。なぜ、この井戸に淡水藻のシマチスジノリが発生したのか：水の浪漫を感じさせます。

なお、シマチスジノリは世界遺産の一つ識名園の育徳泉が發生地として有名で、国の天然記念物に指定されています。



ヌーリガーにて・昭和38年撮影

夜明け前から立ち上がる茅葺き屋根の湯煙、大きなアルミタライを頭に載せた女性たちが賑わいをみせる早朝の井戸端の風景が今は懐かし目に浮かびます。(写真提供・徳田豊子さん)



シマチスジノリ 押し葉標本

## トンチ話のモイ親方

琉球が薩摩の支配を受けて久しい頃、薩摩から「オス鷄の卵を持参するように」と無理難題を命ぜられた父親に代わってモイ少年が出向いた。薩摩側から父親のことを尋ねられると「父は産気づいて来られない」と答えた。「男が産気づくことがあるか」と憤る薩摩に対し「オス鷄が卵を産む道理がない」とモイが答えた。

この話は、昔話や伝承として親しまれる「モイ親方」の逸話のひとつです。モイ親方は奇行や数多くのトンチ話の主人公として有名ですが、実は寒水川村出身の実在する人物なのです。

モイ親方と呼ばれたのは、伊野波盛平(毛克盛・一六四八〜一七〇〇)なる人物だとされています。彼の生家・伊野波殿内は代々三司官(王府の最高職を排出した家柄で、盛平自身も三司官職を六年間勤める等、有能な政治家だったようです。ちなみに、盛平の弟の識名盛命(毛起龍・一六五〇〜一七一五)は、政治家としてだけでなく和文学者としても第一人者として知られる人物で『思出草』という著書が残されています。

琉球の政治の中枢を担った人物たち。彼らに対する誇りが様々な逸話を生んだのかも知れません。

## 寒水川芝居(首里演劇場)

琉球王国時代の芸能は、宮廷芸能として首里士族たちが担い手となり継承されてきました。廃藩置県以降、芸能の舞台は宮廷から商業街の那覇を中心として市井の舞台に移り、民間に流布する民謡や風俗を取り入れた新しい庶民芸能が定着しました。

寒水川芝居は、一八九二年に那覇にあった仲毛(ナカモ)芝居から分かれて造られた演芸場です。天蓋もなく周りを麻袋で囲った芝居場だったようですが、内容は好評を博していたようです。一九二二年に電車が導入されたとき最初に終点が置かれたことで劇場は撤去されました。



ハルガー

下流石組水路



寒水川樋川



ヌーリガー(海苔井戸)跡



豊見城殿内跡

